

カキ「早秋」の樹形とわい性台利用による

栽培管理作業の省力化

カキは高木となり、管理作業の効率が良くないため、果樹研究センターが育成したわい性の台木「静力台2号」を用い、樹形を主幹形にすることで、樹体は大幅に小さくなり、作業効率が上がることが明らかになりました。



「静力台2号」台「早秋」主幹形は、一般的なヤマガキ実生台開心自然形樹と比較して、樹高は56%、樹容積は11%になりました。

ヤマガキ実生台開心自然形
*「早秋」（13年生樹）

「静力台2号」台主幹形
*「早秋」（12年生樹）

<「静力台2号」台「早秋」主幹形の省力効果>

台木・樹形	摘らい 個/分	摘果 個/分	収穫 kg/分
静力台2号 主幹仕立て	33.2	10.9	3.8
ヤマガキ実生 開心自然形	17.6	6.6	1.4
削減率% ^z	47	39	62

「静力台2号」台主幹形とすることで、**摘らい作業は47%の省力化、摘果作業は39%の省力化、収穫作業は62%の省力化**を図ることが出来ました。

*主幹形は、幹をまっすぐ上に向けて伸ばす樹形、開心自然形は幹から骨格となる太枝を2～4本斜上に伸ばす樹形です。

【静岡県農林技術研究所（果樹研究センター）果樹加工技術科】

TEL 054-376-6155 e-mail kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp